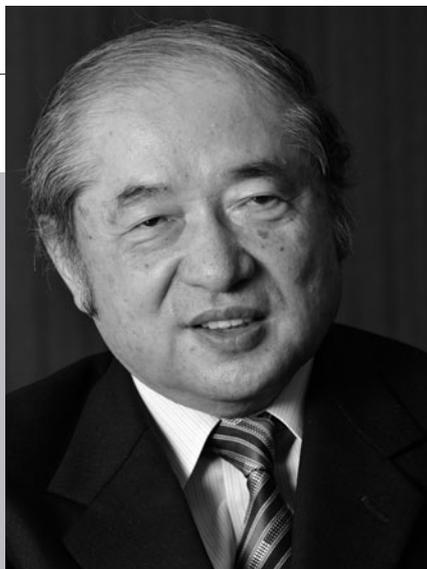


## 2008年は国際社会の中で日本の存在感を発揮できる年

委員長 小島 順彦

三菱商事  
取締役社長



1941年東京都生まれ。65年東京大学工学部卒業後、三菱商事入社。95年取締役、97年常務取締役職担任兼役員兼業務部長、98年職能総括担当役員、2000年新機能事業グループCEO兼コンシューマー事業本部長、2001年取締役副社長CIO兼新機能事業グループCEO、2004年4月代表取締役社長に就任。

98年経済同友会入会、2001年度より幹事、2003年度より副代表幹事。1999～2000年度都市問題委員会副委員長、2003～2004年度日本中国交流委員会委員長、世界における日本の使命を考える委員会委員長代理、2005～2006年度日本のイノベーション戦略委員会委員長、2007年度国際問題委員会委員長。

### TICAD IV、G8サミットで日本のリーダーシップ発揮を

本年度の委員会では、G8北海道洞爺湖サミットに対する外交課題の検討と中東湾岸諸国へのミッション派遣という、大きく2つのテーマをもって活動に臨みました。

国際社会で日本の存在感は低下しつつあります。しかし今年、5月に横浜で第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)、7月にG8サミットが開催されるなど、「国際社会の中で日本がリーダーシップを発揮していける大事な年」です。いずれも、環境問題やエネルギー問題

#### TICAD (アフリカ開発会議: Tokyo International Conference on African Development)

日本が主導し、国連、国連開発計画 (UNDP) および世界銀行と共催で、1993年以降、5年に1回の首脳級会議に加え、閣僚級会議などを開催。今年5月28日～30日に横浜で開催されるTICAD IVには、約40カ国の首脳や関係者が来日予定。TICAD IVは、「元氣なアフリカを目指して」を基本メッセージに、「成長の加速化」「平和の定着、ミレニアム開発目標達成を含む人間の安全保障の確立」「環境問題・気候変動問題への国際社会の取り組み」などを中心議題として討議する。

が主要議題となることが予想されるため、日本の省エネ・環境技術を世界にアピールする大きなチャンスだといえます。1月の世界経済フォーラム年次総会(通称:ダボス会議)でも環境・エネルギー関連のセッションが多く開かれましたが、福田首相がTICAD IVやG8サミットに向けて気候変動問題や開発・アフリカ問題への取り組みについて具体的な提案をしたことは、日本のプレゼンス向上につながったと思います。

こうした国際会議は日本のよいアピールの場ですが、マスコミ報道などではG8サミットばかりに注目が集まっています。特に、TICAD IVへの関心が低いことは非常に残念です。TICADは、日本の主導で開催する国際会議であり、今回のTICAD IVには、アフリカ、欧州など約40カ国の首脳や関係閣

#### 委員長代理 (役職は4月10日現在)

・高須 武男  
(バンダイナムコホールディングス 取締役社長)

#### 副委員長

・清田 瞭  
(大和証券グループ本社 取締役副会長)  
・重久 吉弘  
(日揮 取締役会長・CEO)  
・渋谷 健  
(シブサワ・アンド・カンパニー 代表取締役)  
・竹中 哲也  
(日本航空 取締役副社長)  
・新美 春之  
(昭和シェル石油 取締役会長)

委員139名

(インタビューは3月28日に実施)

僚、国連や世界銀行をはじめとする国際機関の関係者などが、多数参加します。日本では「アフリカ=遠い国々」という意識が強いでしょうが、アフリカ支援は世界的な関心事です。日本の青年海外協力隊の2,600人のうち約3分の1がアフリカで活躍していること、アフリカの医療や教育の向上に日本が大きく貢献していることなど、TICAD IVとともに、もっと関心を持っていただきたいと思います。

### 中東支援は教育や人材育成、産業育成などを軸に

昨年11月には、著しい経済発展を続ける中東湾岸諸国への理解を深め、人的交流を促進するためにミッションを派遣しました。中東諸国は原油高を背景に世界経済での存在感を増しています。しかし一方で、昨年安倍首相が中東歴訪した際に支援を依頼されたように、教育や人材育成、産業育成などに課題を残しています。こうした中東諸国の現状やニーズに応じた貢献ができるかが、今、問われています。国としても企業としても、貢献の「質」が問われる時代になってきたのではないのでしょうか。